

(様式6)

## くす 新植



くす新植(昭和61年3月植付) 800本/ha  
2年生実生苗(苗長平均55cm) 0.37

くすの新植とほらが更新(茶がき林分)と同一河川N田庄であり、更新地同じで条件的に比較調査ができる。

写真① 成長が非常に悪い。——50cm程度(全体の40%)程度

写真② 成長は中程度 ——80cm ( " の30%)

写真③ 成長は良(上の高木類) ——100cm ( " の15%)

写真④⑤ 兎の食害: 0外の諸害: 0( " の15%)

63.2月調査  
プロット調査外  
現地確認

くす新植は試験地と隣接(茶がきの不整形湖所)内に実行されているが成長は全体向うに悪く、成長が悪いのは広葉樹等に昇られる活着の悪さと兎の食害。又写真に見られる如くに、新植の親木が木腐し、萌芽が成長している(90%以上萌芽が発生)兎の食害はほらが生ずる天然生のもにはまったく見られない。

( 様 式 6 )

くす新植(兎の食害)

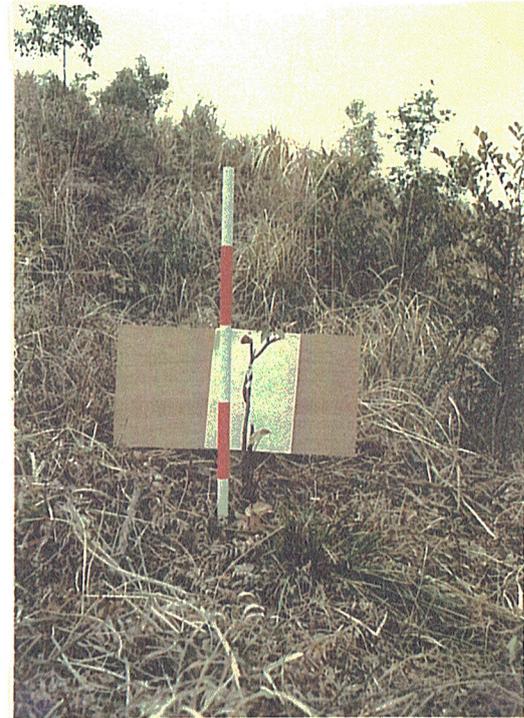
④



兎の食害(63.2月撮影)

\* ぼうろの発生などの天然生のものには  
まったく食害は見られない。

⑤



兎の食害(63.2月撮影)

様式 2

課 題	継続・新規別			担 当 課	開 発 箇 所	期 間	昭 和 61 年度 ~ 平 成 2 年度
	継続		指 示 ・ 自 主 別				
	経 常 ・ 特 別 別	経 常					
広葉樹優良林分を造成するための施業法	継続		任意	造 林 課	申 間		
全 体 計 画	実 施 報 告		昭 和 63 年度実施計画		評 価 お よ び 普 及 計 画		
	昭和62年度までの実施経過を記入のこと		昭和63年度実施結果を記入のこと				
1. 試験地設定  2. 調査事項 (1) 生長量調査 (2) 植生調査  (3) 保育(英かき, 下刈)等の 施業功程調査	1. 昭和61年8月、試験地 (1) 英かき実行区 A (2本仕立) 0.37 HA B (3本仕立) 0.60 " C (4本仕立) 0.45 " (2) クス植栽区 0.63 (61.3 植) (3) 対照区 2.96 " 計 4.91 HA  を設定し、A、B、C区の「英かき」と 調査に支障となる雑草の「下刈」 を実行。  2. 昭和62年8月 (1) 対照区内のクス、タブカシ類の切株 各30本の径級調査とぼうが発生 調査を実行 (2) A、B、C区の再発生ぼうがの英かき および下刈を実行。  3. 昭和62年12月 生長量調査、植生調査を実行。  4. 試験地標示板(0.9x1.8 <sup>m</sup> )設置		1. 昭和63年11月 (1) 生長量調査 (2) 植生調査 (3) 施業功程調査  2. 平成元年1月 昭和63年度業務研究発表		1. 生長量調査 2. 植生調査 3. 施業功程調査		

# 試験経過記録(その1)

(様式4)

任意

申 間 営 林 署

## 課 題

広葉樹優良林分を造成するための施業法

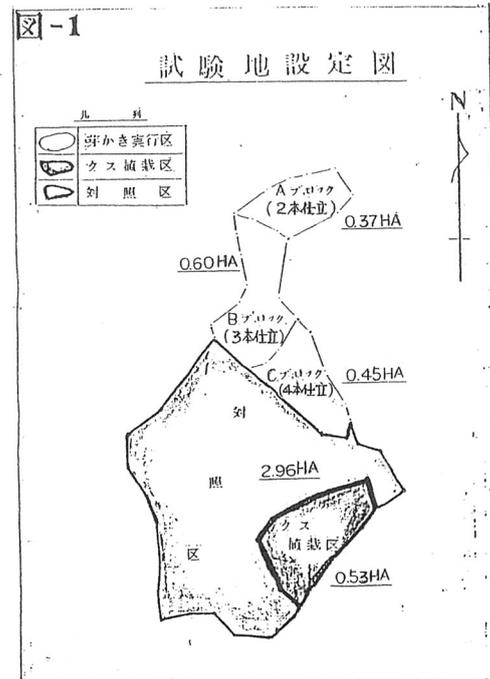
当試験地は、昭和60年度の立木処分箇所で、前生樹は林令36年生の混交率100%の天然広葉樹林分で、クス、タブ、カシ類の占有率が75%と高く、高温多雨の海岸線に面した温暖地域で、傾斜も緩やかで、標高は150~160mの地質である。

昭和61年8月上記箇所を、芽かき実行区(A、B、Cブロック)と対照区に区分し、又隣接する昭和60年度植栽のクス造林地を加え、試験地を設定し、〈図-1〉 Aブロックは2本仕立、Bブロックは3本仕立、Cブロックは4本仕立となるよう、芽かきによる本数調整を行なった。〈表-1〉

なお、芽かき実行区については、調査に支障となる雑草の刈払を行なった。

表-1 試験地の区分と調査

試 験 区		面積	作業と調査
芽かき実行区	Aブロック 2本仕立区	0.37 <sub>HA</sub>	・下刈の実行 ・ブロック毎の成長量調査(毎年調査) ・芽かき後の気候の変化と罹病の観察
	Bブロック 3本仕立区	0.60 <sub>HA</sub>	
	Cブロック 4本仕立区	0.45 <sub>HA</sub>	
	小 計	1.42 <sub>HA</sub>	
クス植栽区		0.53 <sub>HA</sub>	・下刈の実行 ・成長量調査(100本地調査)
対 照 区		2.96 <sub>HA</sub>	・標準地による成長量調査(30x64P)
計		4.91 <sub>HA</sub>	
調査対象樹種 クス、タブ、カシ、イ、サクラ、その他広葉樹			



- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
  2. 状況写真は別途整理する。

# 試験経過記録(その2)

任意

申問 営林署

(様式4)

昭和62年8月 A、B、Cブロックの、再発生ぼうがの芽かきおよび調査に支障となる雑草の刈払を行ない、  
 対照区2.96 HA内の6プロット(6x5m)について根株各30本のクス、タブ、カシ類の~~径~~級調査とぼうが発生  
 調査を行なった。

昭和62年12月 各調査区の、生長量調査および植生調査を行なった。

昭和63年11月 各調査区の、生長量調査(表-2)および植生調査を行なった。  
 なお、施肥工程は(表-3)のとおり。

平成元年1月 業務研究発表会において、研究発表(中間)を行なった。

表-2 樹種別成長量調査

試験区	芽かき実行区				植栽区	対照区	摘要
	Aブロック	Bブロック	Cブロック	計			
面積	0.37 HA	0.60 HA	0.45 HA	1.42 HA	0.53 HA	2.96 HA	
仕立本数	2本	3本	4本		800本		
HA当本数	1119本	1020本	1029本		1500本	4500本	
	本数/面積	本数/面積	本数/面積	本数/面積	本数/面積	本数/面積	
クス	61	242	221	163	180	221	7536
	62	223	213	232	232	272	11307
	63	37	24	39	23	36	1710
タブ	61	92	24	135	271	106	2517
	62	33	21	35	23	33	23
	63	50	23	37	29	39	4923
カシ	61	30	18	121	171	109	1517
	62	20	20	23	22	24	2422
	63	34	23	33	23	32	3227
サクラ	61	18	23	140	224	44	2122
	62	23	23	27	23	29	2723
	63	33	30	33	30	32	3530
広	61	21	17	12	42	20	118
	62	14	12	11	30	27	2321
	63	47	28	42	30	36	27
計	61	414	211	761	2219	463	1917
	62	26	21	29	24	29	22
	63	39	25	42	29	33	26

表-3 保育の工程

試験区	面積	保育				功当(%)		
		61年度	62年度	63年度	計			
		芽かき	下刈	芽かき	下刈	芽かき	下刈	
Aブロック (2本仕立)	0.37 HA	1,500	1,000	0,875	1,500	—	0	2,375
Bブロック (3本仕立)	0.60	1,500	1,125	0,500	2,000	—	0	2,000
Cブロック (4本仕立)	0.45	2,000	1,000	0,625	1,500	—	0	2,625
計	1.42	5,000	3,125	2,000	5,000	—	0	7,000
植栽区	0.53	—	3,875	—	4,750	—	3,125	—

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
  2. 状況写真は別途整理する。

状 況 写 真

区 分	任意
-----	----

申 間 營 林 署

( 様 式 6 )



全 影

